

Avolites Titan Ver 6 Release Notes

Titan Net

Titan Net システムを使用すると、使用可能なユニバースは 64 に増えます。これは DMX 処理を分散することで可能となりました。ただし単独コンソールシステムは 12 ユニバースのままです。

DMX 設定ウィンドウのラインにそれぞれ割り当て、新しい “Titan Net Overview” タブをクリックすると、接続されているノードのステータスに関する情報を表示することができます。使用可能な回線は、左サイド、センター内の利用可能なノードと右側の情報に表示されます。割り当てるには、ノードのラインセクションに接続するラインを選択します。IP アドレスなど、利用可能なスロット数、割り当てられており、負荷の行数などの情報を表示するにはノードをタッチします。より多くの行がスロットの最大数よりも割り当てられている場合は警告がノードとノード情報に表示されます。Titan Net と DMX ノードの割り当て画面を切り替えるには、上部のタブを使用します。

Patch View:

新しくパッチワークスペースが用意されました。これは 1 つの空間に全てのパッチを確認や編集を簡単にすることが出来ます。機能は、パッチ、リパッチ、レジエンド、番号を付け直し、パン/チルトを反転させるとスワップ、凍結、交換、パークやビューフィクスが含まれています。パッチビューが型および/またはライン（パークを含む）によってフィルタリングすることができます。画面上部の使用状況バーは、簡単に使用されているどのくらいの単一またはすべてのユニバースの参照になります。フィクスチャのタイプのフィルタに応じてラインの使用は、回線ボタンのバーメーターとして表されます。これは、行が特定のフィクスチャが含まれているかを確認する方法が簡単な方法を提供します。これは、フィクスチャ、交換を選択するか、使用上のバーをクリックして、次のフリーアドレスを設定することができます。各フィクスチャのタイプは、一意の色で表されます。細胞内の情報は、それらをクリックするか、または複数の項目がコンテキストに 'set' ボタンを押すことによって、一度に編集することができますが直接編集することができます。非連続の項目は、Ctrl キーを押しながら選択することができます。細胞はまた、キーボードのカーソルキーを使用してナビゲートすることができます。ソート・オプションは、コンテキストメニューが用意されています。パーソナリティリストには、上部に最近使用したフィクスチャが表示されます。

Avolites Titan Ver 6 Release Notes

フィクスチャの表示：

パッチを適用したフィクスチャに関する情報を表示することが可能になりました。パッチビューで OPEN/View を押し [View] ボタンを押す。このオフセットは、実際のアドレスおよびディップスイッチの設定を含むレジェンド、名前、製造元、モデル、モード、ハンドル、アドレス、チャンネル・マッピングなどの詳細が表示されます。それは直接反転編集および属性ごとにオプションを凍結することが可能です。

キューリスト ムーブインダーク (Move In Dark)

この機能はキューリストのために用意されました。全体のキューリストに設定し、individual (暗転時) キューでオーバーライドすることができます。グローバルなオプションは次のとおりです。

- [Disabled] 個々のキューの設定特定にかかわらず、キューリストすべての MID 命令を中止することができます。
- [Early] できるだけ早くそのキューへ移動しようとします。
- [Late] できるだけ遅れてそのキューへ移動しようとします。
- [OFF] 個々のキューに指定されない限り、暗闇の中での動きをオフにします。

キュー・オプションは次のとおりです。

- [Global] キュー・リストグローバル MID の設定を使用します。(デフォルト)
- [Cue Number] MID を実行するキューを指定します。
- [Cue Offset] 予めキューの優先数を設定。
- [Disabled] このキューの Move In Dark をオフにします。
- [Early] できるだけ早く移動します。
- [Late] できるだけ遅れて移動します。

Avolites Titan Ver 6 Release Notes

キューリスト - Tracking Options:

各キューに対しては、ダーク遅延の移動を設定することができ、ダークフェード時間に移動します。各キューには、MID 中止するスイッチがあります。MID をオンにすると、そのキュー中に発生することはできません。指定されたキューは MID が抑制されている場合、また任意のフィクスチャは、キュー内のステージ上でライブであればすべてのケースで、それは代わりに最も近い適切なキューに MID をしようとします。

それは追跡の動作方法を制御することが可能になりました。

[Block]

キューを block に設定すると前のキューのトラッキング情報を反映しません。

その後のキューは block キュー以降をトラックします。

[This Cue Only]

このキューの変更は前のキューまでトラックしません。前のキューの変更していない情報はそのままです。

[Solo]

ソロキューには情報はトラックされません。前のキューの情報は後のキューまでトラックしますがソロキューには表示されません。

Copy/Move Within キューリストと Chases:

command line syntax または unfold から playback view のキューをクリック/ドラッグすることで、ranges を含め同じキューリスト内または他のキューリスト、チェース間でキューのコピー・移動が可能になりました。Command syntax は以下の通りです。

同じプレイバック内でのコピー/移動:

```
COPY/MOVE <playback> <cue> [THRO <cue>] [NOT <cue>] [AND <cue>] @ <cue>
ENTER
```

```
COPY/MOVE <playback> <cue> [THRO <cue>] [NOT <cue>] [AND <cue>] ENTER
<cue> ENTER
```

同じプレイバックの最後へのコピー/移動:

```
COPY/MOVE <playback> <cue> [THRO <cue>] [NOT <cue>] [AND <cue>] @@
COPY/MOVE <playback> <cue> [THRO <cue>] [NOT <cue>] [AND <cue>] ENTER
ENTER
```

異なるプレイバックへのコピー/移動:

```
COPY/MOVE <playback> <cue> [THRO <cue>] [NOT <cue>] [AND <cue>]
[@][ENTER] <playback> <cue> ENTER
```

Avolites Titan Ver 6 Release Notes

異なるプレイバックの最後へのコピー/移動：

COPY/MOVE <playback> <cue> [THRO <cue>] [NOT <cue>] [AND <cue>]
[@][ENTER] <playback> ENTER

COPY/MOVE <playback> <cue> [THRO <cue>] [NOT <cue>] [AND <cue>]
[@][ENTER] <playback> <playback>

(<playback>は playback swop キー、<cue>はキュー番号で、角括弧のセクションはオプションです。)

Theatre Syntax:

新しい syntax オプションがキューリストレコーディングおよび編集を素早くできるように追加されました。次のコマンドは<n>がキュー番号の選択された、または現在接続中のプレイバックに有効です。

RECORD CONNECT <n> ENTER (record cue n)

COPY CONNECT <n> (Copy cue n)

DELETE CONNECT <n> (Delete cue n)

INCLUDE CONNECT <n> (Include cue n)

CONNECT <n> GO. (Go cue n)

Pearl Expert と Tiger Touch ではレコードキューボタンをレコードとして使用することができます。

Pixel Mapper Text:

新たなテキストがピクセルマッパーに追加されました。エレメントセクションで “Ab” と表示されています。利用可能なプロパティは以下の通りです。

Font/Font Style

Opacity

X Position

Y Position

Width

Height

Zoom

Rotation

Border Width

Avolites Titan Ver 6 Release Notes

Pixel Mapper Image:

ピクセルマッパーに画像が追加されました。エレメントセレクションにオープンファイルイメージで表示されます。選択するとイメージブラウザが開きます。*ローカルソースとUSB から選択できます。デフォルトではローカルイメージディレクトリは my documents/my pictures になっています。jpg, png ,bmp 形式で画像をインポートすることができます。メインウィンドウのディレクトリをクリックすると開きます。ディレクトリの階層を上げるには下方の矢印ボタン右のアイコンを押します。選択可能な画像がプレビューとして表示されます。ピクセルマッパーに即座に追加するには画像をダブルクリック、複数の画像を選択するには'チェック'アイコンでインポートします。複数の画像をインポートした場合、インポートセクションのライブラリが開き、使用する画像を選択することができます。ゴミ箱をクリックするとライブラリの画像を削除できます。画像を選択しチェックします。利用可能なプロパティは以下の通りです。

Opacity

X Position

Y Position

Width

Height

Zoom

Rotation

(*イメージブラウザが開かない場合はタスクバーのキーボードボタンをクリックします。)

Pixel Mapper Scribble:

ピクセルマッパーにスクリブル機能が追加されました。elements selection にペンを持つ手が表示されています。これを選択するとタッチキーボードが開き絵を描くことができ、ピクセルマッパーのエレメントとして使用できます。利用可能なプロパティは以下の通りです。

Opacity

X Position

Y Position

Width

Height

Zoom

Rotation

Avolites Titan Ver 6 Release Notes

Pixel Mapper Grid Fit Animation:

グリッドフィットピクセルマッパーアニメーションが追加されました。animation selection に 3x3 ドットのレギュラーグリッドとして表示されています。利用可能なプロパティは以下の通りです。

Columns

Rows

シンプルな 5x5 レイアウトの使用例- ブロックエレメント (1つのセルのサイズに拡大)+ディスプレイメントアニメーション+グリッドフィット(5x5)+オパシティアニメーション。これで1つのセル全体にのみランダムにフェードイン/アウトするブロックを作ります。

Pixel Mapper Wheel and Numeric Control:

ホイールを使用、または数値を入力することで pixel mapper control の調整が可能になりました。これにより微調整、正確な数値を出すことが容易になりました。ホイールに割り当てるにはコントロール右のバリューボックスを押します。いくつかのアトリビュートはホイールにペアとしてグループ化されています。現在ホイールに割り当てられているコントロールは数値の端にハイライトされたボックスで表示されています。最後に選択したコントロールは数値入力の準備もできています。これは値そのもののハイライトで表されています。2つソフトキーが追加されています: '+/-' でプラスからマイナス、マイナスからプラスへと値を入れ替えます。' Reset to default values' (または数値をダブルクリック) でコントロールをデフォルト値にリセットします。

Avolites Titan Ver 6 Release Notes

Shapes and Effects を表示

チャンネルグリッド、キュービューのピクセルマッパー、シェイプインフォメーションを表示できるようになりました。チャンネルグリッドのピクセルマッパー、シェイプインフォメーションを表示するにはチャンネルグリッドのコンテキストメニューからオプションを選択します。ピクセルマップエフェクトがアトリビュート上にあるときは'Effect'と表示されます。シェイプがアトリビュート上にあるときはシェイプの名前で表示されます。プレイバックビューにはそれぞれシェイプとピクセルを表す2つのカラムが追加されました。ピクセルマッパーインフォメーションがあるところでは[View]ボタンが表示されます。

このボタンを押すとグリッド形式のエフェクトバリューの詳細を表示する'Pixel Mapper Effect View'が開きます。エフェクト、レイヤー、エレメント、アニメーションはツリースタイルです。セルを選択し直接値を編集できます。数値の入力、ホイールを使用して調整できます。シェイプインフォメーションがあるところではシェイプの名前のボタン（複数のシェイプの場合は[...]）が表示されます。このボタンをクリックするとキューに含まれるすべてのシェイプを表示するシェイプビューが開きます。シェイプコントロールはセルをクリックし新たな数値を入力して直接編集できます。シェイプの個々のフィクスチャーを表示、編集するには[View button]をクリックし Shape Fixture View を開きます。

Auto Legend:

オートレジェンドという新たなユーザー設定ができました（デフォルトで有効）。この設定を有効にしているときは手動でレジェンドを設定しないかぎりパレットをレコーディングするとき自動的にレジェンドを作成します。ワークスペースでカラーパレットをレコーディングするとき、カラーアイコンがその色を表します。パレットが異なる色に設定された複数のフィクスチャーを含む場合、それぞれの色が縦棒として表示されます。CITP サムネイルを含むパレットをレコーディングするとき、レジェンドはサムネイル画像を使用しません。その他のパレットは、デフォルトのパレットレジェンドに戻る pan/tilt を除いて最後に調整した機能と値が使用されます。

Assign Masters:

アサインマスター

コンソールに専用のコントロールがない場合、ハンドルにマスターを割り当てることができるようになりました。[Assign Mastering]からマスターを選択しハンドルを選びます。利用可能なマスターは以下の通りです。

Avolites Titan Ver 6 Release Notes

Grand

Playback

Preset

Flash

Swop

マスター用にさまざまなキープロファイルオプションが[Playback Options]から設定できます。デフォルトではマスターにトランスピアレントロックが設定されていますので注意してください。これも[Playback Options]で変更できます。

Speed Masters:

スピードマスターにプレイバックを割り当てることができます。スピードマスターを割り当てるにはシステムの[Assign Mastering]からマスターを選択し、ハンドルを選びます。利用可能なスピードマスターは以下の通りです。

'BPM' (1-4)

BPM マスターは絶対値でローカルスピードをオーバーライドします。それぞれの BPM マスターの最大速度は[Playback Options]で切り替えます。

'Rate' (1-4)

レートマスターは均等にローカルスピードを master します。レートマスターのスケールは[Playback Options]で切り替えられます。

'Rate Grand Master

レートグランドマスター4つのレートマスターを均等にコントロールします。

[Playback Options]には BPM マスタータップテンポ（デフォルト）など様々なキープロファイルオプションがあります。[Playback Options]/[Speed Source]でスピードマスターの一つを使用するためにプレイバックを割り当ててください。[Local]はデフォルトです。スピードマスターはシェイプとエフェクトをコントロールするためにも使えます。スピードマスターを割り当てることは[Speed on Fader]オプションと無関係であるということに注意して下さい。言い換えればスピードマスターはスピードを static on fader に設定してもシェイプのスピードをコントロールします。

Shapes on Subfixtures:

マスターフィクスチャーハンドルでサブフィクスチャーのシェイプを起動することができるようになりました。マスターフィクスチャーを選択するとスーパーフィクスチャーまたはサブフィクスチャーにシェイプを起動するかどうか尋ねられます。

Avolites Titan Ver 6 Release Notes

Unfold a Range of Multi-Celled Fixtures:

サブフィクスチャーを含むフィクスチャーを unfold できるようになりました。2 つの方法があります。

1) UNFOLD <select (range of) fixtures>

すべてのフィクスチャーのサブフィクスチャーがすぐに連続してハンドルに表示されます。

2) <select fixture(s)> UNFOLD [Selected Fixtures] [Selected Fixtures]を押すとすべてのフィクスチャーのサブフィクスチャーが連続してハンドルに表示されます。

この方法により非連続での複数のフィクスチャーの選択を行うことができます。

2)の方法を使用した場合、unfold したハンドルが常に Fixtures workspace に表示されます。

Sub Fixture Selection in Attribute Editor:

サブフィクスチャーを含むフィクスチャーを選択したとき Attribute Editor に利用可能なセルとマスターフィクスチャーが表示され、選択・編集できます。複数のセルを選択することもできます。必要ならばこのセクションから直接グループを作成することができます。

Sub Fixture Numeric Selection:

サブフィクスチャーセクションの numeric syntax は複数のフィクスチャーのために強化されています。利用可能なコマンドは以下の通りです。

.(all sub fixtures of selection)

.THRO j (sub fixtures 1->j of all selected fixtures)

THRO j (sub fixtures 1->j of all selected fixtures - Shorthand for above)

.m (sub fixture m of all selected fixtures)

.m THRO (sub fixtures m->last of all selected fixtures)

.m THRO j (sub fixtures m->j or all selected fixtures)

.m THRO i (sub fixtures m->i of all selected fixtures - Shorthand for above)

n THRO i. (all sub fixtures of fixtures n->i)

n THRO i.j (sub fixture j of fixtures n->i)

n THRO j (sub fixture 1->j of fixture n)

n. (all sub fixtures of fixture n)

n. THRO (all sub fixtures of fixture n->last consecutive of type n)

n. THRO i (sub fixtures 1->i of fixture n)

Avolites Titan Ver 6 Release Notes

n. THRO i,j (sub fixtures 1->j of fixtures n->i)
 n.m (sub fixture m of fixture n)
 n.m THRO (sub fixtures m->last of fixture n)
 n.m THRO i (sub fixtures m->i of fixture n)
 n.m THRO i. (sub fixture m->last of fixtures n->i)
 n.m THRO i,j (sub fixtures m->j of fixtures n->i)
 n.m THRO .j (sub fixtures m->j of fixture n)

Second Monitor Output for Titan Mobile:

タイタンモバイルは 2 つのディスプレイをサポートするようになりました。システムの [Display Setup] で有効/無効にできます。

Static Playback Pages:

タイガータッチとタイタンモバイルのスタティックプレイバックにページ番号を振ることができるようになりました。これはタイガータッチの 10 のスタティックプレイバックとタイタンモバイルの 20 エクスキューターボタンに適用されます。最大 60 ページです。ページを変更するには new factory マクロを使用します。(*マクロはフィクスチャーライブラリの一部です。マクロがなければ最新のライブラリをダウンロード・インストールしてください。

DMX Triggers for Titan Mobile:

タイタンモバイルのリモートトリガーとして DMX を使うことができるようになりました。USB エキスパートマニュアルに詳述されている通りタイタンモバイルは DMX を有効にするにはファームウェアアップデートが必要になります。

Display DMX Address in Fixture Handle:

フィクスチャーワークスペースのハンドル用パッチアドレスをパッチメニューに行かなくとも確認できるようになりました。fixture workspace context メニューで on/off の切り替えができます。

Patch with Offset:

パッチでオフセットを provide するときに新たなオプションができました。意図的にフィクスチャー間に間隔を残したい場合これにより時間を節約できます。主としてフィクスチャーの交換を含むショーを計画している場合に使います。パッチのときこれは [Options] メニューにあります。パッチビューで編集またはリパッチする場合は 'retain layout', 'bunch up' に加えて 'bunch up with offset' という 3 つめのオプションがありま

Avolites Titan Ver 6 Release Notes

す。このオプションを選択するとオフセットをインプットすることができます。オフセットはフィクスチャーが占める合計チャンネル数です。例えばパッチ 2x Martin Mac 700 Profile 31 DMX オフセットで DMX 001 からスタート = 40 は at 001 で fixture 1、041 で fixture 2 になります。 .

Update All Personalities:

Patch/[Update Personality]は個々にではなく[Update All]ボタンですべての使用可能なパーソナリティをアップデートできるようになりました。

User Personality Directory:

カスタムフィクスチャー用に新たにパーソナリティディレクトリが作られました。パーソナリティをパッチするとき、これが最初に検索されライブラリアップデート時に影響しません。これは'My Documents¥Titan¥Personalities¥'にあります。

New Show Wipe DMX Option:

新しいショーを開始するときは、既存の DMX 設定を保持するか、またはデフォルトにリセットするオプションがあります。

Load With or Without DMX Settings:

ショーをロードするときは、既存の DMX 設定を保持するか、showfile に格納されているものを使用するオプションを持っています。

Loading Bar Status:

ショーをロードするときには、show ロード中の進行状況を表示する新しい画面がありません。

Show Browser:

LCD 表示せずにコンソール上でのショーをロードして保存するときに、新しい専用のワークスペースが用意されました。

Quick Merge:

パレットをオーバーライドするときに[クイックマージ]と呼ばれる追加のオプションがあります。これは、元のパレットに存在するチャンネルのみを許可するようにマスクをフィルタリングします。マスクは、ソフトキーの表示で表されます。二重押したときにこれがデフォルトのアクションです。

Avolites Titan Ver 6 Release Notes

Store Locate State:

フィクスチャのロケート状態を記憶することが可能になりました。これらは、シユア（同じタイプのすべてのフィクスチャに適用されます）として、または個々のフィクスチャとして記録することができます。[Locate]、[RECORD]を押します。これは、Shared/Individual のオプションを含むメニューを提示します。[RECORD]を押した後に選択する事が出来ます。

Release Key Profile Option:

新しいキューリストのためにキープロファイル・オプションを初期化します。
プレイバックを解放するために、新しいキーのプロファイルオプションがあります。

Active Playbacks Workspace :

アクティブなプレイバックを表示するには、新しいワークスペースが用意されました。これは、現在実行中の、どのページから実行されているかを確認する簡単な方法を提供します。これは、アクティブなプレイバックを直接実行することができます。キル、コピー、ムーブ、表示、およびレジェンドを設定する機能が含まれています。

Record Groups on Macro Buttons :

タイガータッチとエキスパートタッチウィング上のマクロキーでグループを記録することができます。

Record Time code from Playback View :

プレイバックビューでタイムコードをレコードします。
レコードタイムと呼ばれる再生ビューで新しいコンテキストメニュー項目があります。これは、レコードが有効になっているタイムコードメニューにショートカットを提供します。

Lock Macro and Palette Handle Paging :

マクロやパレットのロックと透明なロックを設定することが可能になりました。エグゼキュータのボタンに新しいスタティックページの変更マクロを割り当てるときに特に便利です。